



新宮市におけるニューツーリズムおよび
文化観光のかたち

尾崎 瑞穂・中山 穂孝

新宮市におけるニューツーリズムおよび文化観光のかたち

尾崎瑞穂・中山穂孝

I はじめに

今日の日本における観光は、京都や奈良などの古都を巡る観光、桜並木や紅葉、雪景色など美しい風景を眺める観光、東京や大阪のテーマパークを巡る観光など、さまざまな形態がある。それらの観光形態の一つとして新しく定められたのが「ニューツーリズム」である。そしてニューツーリズムのうちの一つとして、文化観光という観光形態がある。ニューツーリズム及び文化観光とはどのような観光形態を指すのか、また具体的にどのような施設、ツアー、対応等がニューツーリズム及び文化観光としての役割を果たしているのかどうかを、和歌山県新宮市を事例として考察する。

新宮市へは、大阪から車で4時間かかり、東京から深夜高速バスで約10時間半、決して気軽に行ける場所であるとは言えない。しかしそれほどの長い時間をかけて訪れるほどの魅力が、新宮市にはある。その魅力の一つとして、観光地が多いということも欠かせないだろう。新宮市の観光地を調べると、文化観光の特徴に当てはまる観光地が多くあった。ゆえに、今回新宮市を事例として取り上げることにした。

本稿は、II章で新宮市とニューツーリズムがどのように結びついているか、III章で今回ニューツーリズムの中でも文化観光の対象となるテーマとして取り上げる人物・物事の関連性について述べる。そしてIV章以降では主に文化観光に焦点をあて、具体的事例を挙げてそれらが文化観光としてどのような役割を果たしているかを確認していく。最後に新宮市のニューツーリズムおよび文化観光についてまとめるとともに、今後の展望について考察する。

II 新宮市とニューツーリズム

1. ニューツーリズムの概念

ここでまず、ニューツーリズムの概念について確認する。観光庁は、ニューツーリズムの振興を施策の一つとし、ニューツーリズムを「従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた新しい形態の旅行¹⁾」と定義づけている。

「物見遊山」は「見物して遊び歩くこと」という意味である。ここでいう「従来の物見遊山的観光旅行」とは、いわゆるマスツーリズム、つまり戦

表1 ニューツーリズムの6つのカテゴリーとその特徴

カテゴリー	特徴
文化観光	日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする観光
産業観光	歴史的・文化的価値のある工場等やその遺構、機械器具、最先端の技術を備えた工場等を対象とした観光で、その学びや体験を伴うもの
エコ・ツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを損なうことなく、それらを体験し学ぶ観光
グリーン・ツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動
ヘルス・ツーリズム	自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する観光
ロングステイ	長期滞在型観光。地域の活性化や、地域との深い交流により観光客の豊かな生活を実現するもの

(出典:観光庁HPより筆者作成)

後復興期の急速な経済発展による観光需要の拡大とともに生まれた観光形態（金 2008）を指していると考えられる。というのは、マストゥリズムの主な目的は短い時間で多くの観光地を見て回ること（金 2008）であり、物見遊山の意味と合致するからだ。

マストゥリズムは経済発展を促した一方、文化の変容や俗化、環境の破壊や汚染など、観光地に多くの問題をもたらした（金 2008）。山上・堀野（2003）によれば、1970年代には上記のような問題を持つマストゥリズムへの批判が盛んになり、1980年代になるとマストゥリズムに代わる新しい観光形態が模索され始めた。その新しい観光形態を集約し定義づけされたものが、観光庁が掲げるニューツーリズムであると言える。

観光庁はまた、ニューツーリズムを6つのカテゴリーに分けている。表1は、6つのカテゴリーの名称と、その定義を表したものである。

このように、ニューツーリズムはさまざまな形態を持つ。次節では、上記のニューツーリズムの概念や特徴を踏まえた上で、新宮市におけるニューツーリズム、そしてそのカテゴリーの中でも文化観光の特徴と、新宮市の取り組みを確認する。

2. 新宮市におけるニューツーリズムの特徴と取り組み

ここでは、新宮市でニューツーリズムが現れ始めた背景を確認する。これについては、新宮市観光協会（以下、観光協会）事務局長の寺前俊二氏の話を参考にする。寺前氏によれば、マストゥリズムが盛んだった頃は、寺社参拝や温泉を目的として来る人が多かったという。観光協会や市役所

の各担当者は、より大勢の人に新宮市に来てもらおうと、画一的で決まりきったプラン・コースを観光客に提供していた。

しかしそのような従来の観光形態だけでなく、新宮市の寺社や温泉以外の観光地も知ってもらおうと、10年ほど前から佐藤春夫、西村伊作、中上健次などの新宮市名誉市民²⁾や、大逆事件を観光の目的とする形態が少しずつ現れ始める。その頃から観光協会発行の観光案内に、大逆事件と関係のある人物である大石誠之助が紹介されたり、佐藤春夫記念館や旧西村家住宅などを巡る観光コースが組まれたりした。新宮市、真宗大谷派、熊野大学による大逆事件のシンポジウム「闇から紡ぐ人と光」が開催されたことも、大逆事件の学習を目的とした観光が生まれるきっかけの一つであったと考えられるだろう。

現在は観光協会や新宮市各担当課が作成する、新宮市を紹介するパンフレットの中で大逆事件や新宮市名誉市民が紹介されている。図1は、新宮市企画政策部協働推進課広報聴係編集『心薫る新宮市』の中の、新宮市名誉市民を紹介するページである。この冊子には、新宮市名誉市民10名が紹介されている。これによって観光客が新宮の文化に興味関心を持てば、新宮市の歴史・文化を学ぶニューツーリズムの促進に繋がるだろう。

また寺前氏は、マストゥリズムが盛んだった頃、決まりきったプラン・コースを提供するのは「一網打尽」的観光であったが、現在は「十人十色」的観光であると述べる。では何がどのように「十人十色」であるのか。以下で具体的事例を取り上げ、考察する。

事例として、観光協会が企画する「世界遺産の



図1 新宮市名誉市民の紹介
（出典：新宮市企画政策部協働推進課広報聴係編集『心薫る新宮市』（2010）から）

町・新宮市 ガイドさんといっしょに まち歩きフェスタ（以下、まち歩きフェスタ）」を取り上げる。まち歩きフェスタには5つのコースが用意されており、個人で観光ガイドを頼むとガイド料が2,000～4,000円かかることを、まち歩きフェスタに申し込みれば各コース一律500円で観光ガイドと一緒に新宮市の名所を巡ることができるという企画である。表2は、まち歩きフェスタで参加者が選ぶことができる5つのコースの概要である。

まち歩きフェスタの特徴として考えられるのは、参加者が自分の希望に合うコースを選べることである。例えば世界遺産（熊野速玉大社・神倉神社）について詳しく知りたければ1の「新宮の世界遺産・熊野速玉大社と神倉神社」に、大逆事件について詳しく知りたければ2の「大逆事件と新宮の文学散歩」に参加すればよい。このようにさまざまな観光客のニーズに合わせたコースを用意している。これが「十人十色」的観光であると言えるのではないだろうか。

またこれらのコースについて注目すべきもう一つの点は、5つのコース全てが、観光ガイドが各コース参加者に対して、新宮市の歴史や文化を解説する内容になっているということだ。つまりこのまち歩きフェスタは、新宮市の歴史や文化を学び、体験することができる観光として機能する企画であるといえる。

表2の「訪れる主な場所」に示したように、新宮市には、観光庁が定めたニューツーリズムのカ

テゴリーの1つである、「文化観光（日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする観光）」の特徴をもつ観光地が多い。したがって本稿では、ニューツーリズムの6つのカテゴリーの中でも、特に文化観光に着目したい。次節では、表2に挙げたものに加え、文化観光の対象となる観光地として他にどのようなものがあるのかを示す。

3. 新宮市の歴史、文化を学ぶ対象となる観光地

ここでは、文化観光の対象となる観光地としてどのようなものがあるかを、地図を用いて示す。図2は、新宮市の数ある観光地の中でも歴史や文化を学習・体験する対象となる観光地を取り上げ、地図上に示したものである。

図2から分かるように、新宮市には文化観光の資源となりうる観光地が多くある。これらの観光地の中でも、私がはじめに関心をもったのは旧西村家住宅である。というのは、旧西村家住宅が国の重要文化財（1950年に制定された文化財保護法による有形文化財のうち、重要として文部科学大臣が指定したもの）であることを知ったからだ。ゆえに次章以降では、旧西村家住宅および西村伊作、加えてそれに関連する人物・物事として、佐藤春夫、中上健次、大逆事件を、ニューツーリズム、特に文化観光の事例として取り上げることにした。そしてそれらが新宮市の歴史や文化を学習・体験する観光としてどのようにはたらいっているのかを

表2 まち歩きフェスタのコースと巡る場所および所要時間

	コース名	訪れる主な場所	所要時間
1	新宮の世界遺産・熊野速玉大社と神倉神社	熊野速玉大社・神倉神社	約2時間
2	大逆事件と新宮の文学散歩	大逆事件顕彰碑・西村記念館・佐藤春夫記念館	約2時間
3	国の史跡「新宮城跡」新宮藩の隆盛	新宮城跡	約1時間半
4	「秦の徐福」の伝承地を訪ねて	徐福公園	約1時間半
5	国の天然記念物「浮島の森」散策 ～不思議まちなかの沼地に浮かぶジャングル	浮島の森	約1時間

（出典：新宮市観光協会発行「世界遺産の町・新宮市ガイドさんといっしょにまち歩きフェスタ」案内）



図2 新宮市の歴史や文化を学習・体験する対象となる観光地とその場所

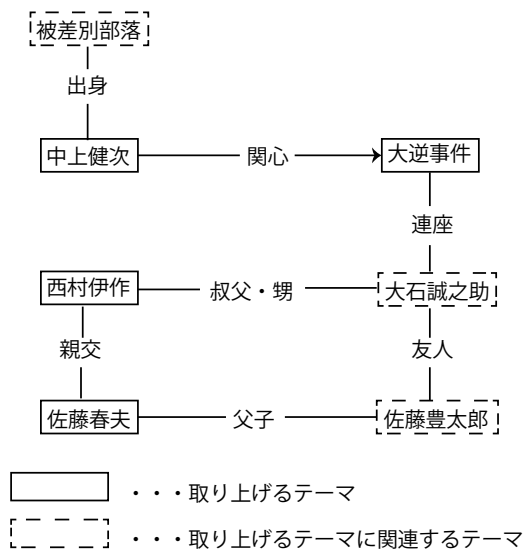


図3 取り上げるテーマの関係性（筆者作成）

考察する。

III 西村伊作、佐藤春夫、中上健次、および大逆事件の関係性

この章では、これから事例として挙げるテーマである西村伊作、佐藤春夫、中上健次、および大逆事件の関係性を確認する。図3はそれらの関係性を模式的に表したものである。

図3にある大逆事件とは、1910年に起こった事件である。大逆事件で処刑されたうちの一人に、大石誠之助という人物がいるが、西村伊作は彼の甥にあたるため、この二人には親交があった。また佐藤春夫と大石誠之助も、春夫の父である豊太郎と大石誠之助が友人同士であったため、繋がりがあった。西村伊作と佐藤春夫に関しては、現在は記念館となっている佐藤春夫の自宅を設計したのが西村伊作の弟の七分であったり、同じく現在は記念館となっている西村伊作の実家に佐藤春夫が訪れたり、色々と親交があった（辻本2010、新宮市教育委員会「新宮市・文化と人権」より）。

中上健次は、西村伊作らと生きていた時代が違うため、直接的な関わりはない。ここで注目したいのは、中上健次と大逆事件の関係である。大逆事件は、被差別部落の問題とも関係があった。中上健次は同和地区出身者ということもあり、被差別部落を舞台にした小説（『岬』や『枯木灘』など）を書いた。また大逆事件にも強いこだわりがあり、1977年発表の「私の中の日本人」という文章で大石誠之助を取り上げていたり、1990年の講演「小説家の想像力」で「大逆事件を書いてみたい」と述べたりしている（辻本2010）。

以上が、本稿で取り上げるテーマの関連性である。これらの人物・物事が新宮市における文化観光の観光資源としてどのような役割を果たしているのか。またそれに対する観光客にはどういった特徴があるのかということを確認していく。

IV 西村伊作について学ぶ観光

1. 西村伊作の人物紹介

西村伊作は、1884年に新宮市に生まれた。叔父の大石誠之助に影響を受け、反戦運動や生活改善

啓蒙活動を行った。そのため大逆事件の際には、伊作も捜査の対象とされた。

1910年、伊作は与謝野鉄幹・晶子夫妻や画家の石井柏亭（はくてい）の協力のもと、文化学院を創立し、教育家としても活動するようになる。文化学院は日本人による初めての高等教育機関であり、自由主義的教育を実践した学校である。主な歴代の講師として与謝野夫妻、佐藤春夫、石井伯亭、山田耕作、芥川龍之介、川端康成、美濃部達吉などがある。

建築家としての活躍も著しく、家庭生活を重視した居間式住宅（日本では太平洋戦争後に一般化した住宅）を日本で最初に新宮市に建築する。そのような建築経験を生かし『楽しき住家』を出版すると、大きな反響を呼び新しい住宅の提唱者として、全国に名が知れ渡ることとなる。他にも陶芸家など、幅広い分野で活躍し、大正期を代表する自由人と称される³⁾。

2. 旧西村家住宅の概要

旧西村家住宅は、元々西村伊作が1914年に設計・建築し、家族とともに過ごした自宅である。また佐藤春夫や与謝野鉄幹・晶子夫妻、石井柏亭などの多くの文化人たちの交遊の場でもあった。日本の近代住宅の先駆例として大変貴重な建物であるとされている。1998年に西村家から新宮市に寄贈され、歴史ある建物および西村伊作の作品の保存、展示のために記念館として公開されている。館内には伊作と彼の家族が暮らした部屋や、そこで使用した家具が残されており、伊作の油絵や焼物な



写真1 旧西村家住宅（筆者撮影）

どの作品等が展示されている。

3. 旧西村家住宅の最近の動き

2010年、日本で最初の居間式住宅として国の重要文化財に指定された。2010年4月17日付の毎日新聞、朝日新聞、18日付の南紀州新聞一面、紀南新聞の一面に旧西村家住宅が重要文化財に指定されたことが取上げられていることから、紀南地方にとって大きな出来事であったといえる。

実際に旧西村家住宅を訪れ、管理人の山上氏に話を聞いた。山上氏によれば、旧西村家住宅は観光協会が主催するツアーの企画等には携わっていない。しかし、新聞社に旧西村家住宅に取材に来てもらうことで、旧西村家住宅の宣伝をしているという。私が訪問した9月26日には、庭の彼岸花が見頃だということで、新聞社に取材を依頼し、記者が来ていたらしい。その記事は10月2日付の産経新聞と毎日新聞に掲載された。山上氏は、新聞の掲載を通じて、国の指定重要文化財という貴重な建物である旧西村家住宅を、特に地元の人々に知ってもらいたいという思いを持っている。

4. 旧西村家住宅の入館者の特徴

ここでは、旧西村家住宅の入館者の特徴や、旧西村家住宅及び新宮市に来た意向を、アンケート調査の結果をもとに考察していく。アンケート調査は、2013年11月25日から12月20日まで行った。旧西村家住宅にアンケート用紙を置き、訪れた人に任意で記入してもらうというかたちをとり、全部で43人分集まった。以下の図はアンケート

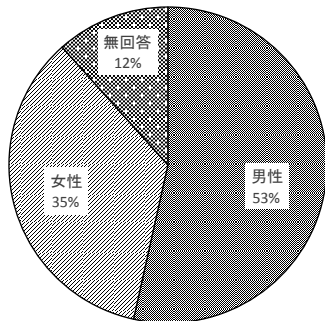


図4 旧西村家住宅の入館者の男女比

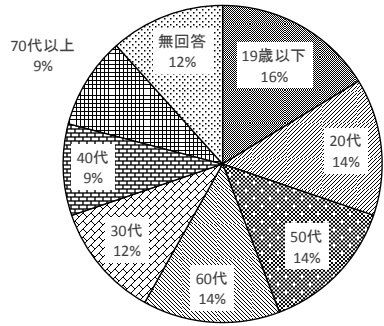


図5 旧西村家住宅の入館者の年代

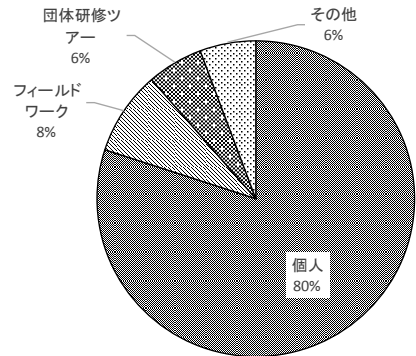


図6 旧西村家住宅をどのようなかたちで訪れたか

結果をまとめたものである。

図4は旧西村家住宅の入館者の男女比を、図5は旧西村家住宅の年代を表したものである。図4と図5を合わせて見てもらいたい。年代に関しては、どの年代も同じぐらいの割合である。性別に関しては、男性のほうが多いものの、極端な差はない。つまり、老若男女問わずさまざまな人が訪れていると言われている。

図6は、入館者が旧西村家住宅をどのようなかたちで訪れたかを表したものである。図6より、旧西村家住宅へは個人的に訪れる人が多く、団体に訪れる人は少なかった。数は少ないが、フィールドワークとして訪れている学生がいたことから、旧西村家住宅は学習の対象となるということが確認できる。

図7は、旧西村家住宅の入館者がどこから来たのかを表したものである。新宮市からの入館者が

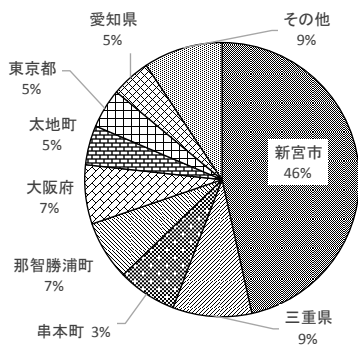


図7 旧西村家住宅の入館者の住所

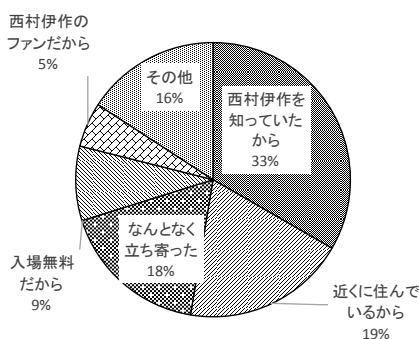


図8 旧西村家住宅を訪れた理由

半数近くを占め、新宮市から近い串本町や那智勝浦町、太地町からの訪れた人もいる。他にも20%弱の人が、三重県や大阪府、愛知県など、全国的にみれば比較的新宮市から近い所から訪れている。一方、東京都からの入館者は5%いるものの、関東地方や他の遠方の地域からの入館者は少ない。次章で取り上げる佐藤春夫記念館に比べて新宮市内から訪れた人の割合が多いのは、旧西村家住宅が重要文化財であることと、地域の新聞で取り上げられていることが関係しているだろう。

図8は、入館者が旧西村家住宅を訪れた理由を表したものである。西村伊作を知っていたから訪れたという人が最も多い。西村伊作のファンの方は、西村伊作について詳しく学びたいという思いから、旧西村家住宅を訪れたのだろう。しかし西村伊作は知っているがファンというわけではないという人は、ファンの人ほど「学びたい」という強い意志は持っていないまでも、西村伊作に少な

らず関心があったために旧西村家住宅を訪れたと捉えてよいだろう。これは文化観光の定義である「日本の歴史、文化といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とする。」ということに合致するだろう。

「近くに住んでいるから」「なんとなく立ち寄った」というのも、決してマイナスな理由ではない。知りたい、学びたいという思いがあって旧西村家住宅に立ち寄ったわけでもなく、今回旧西村家住宅を訪れることによって西村伊作に関心を持ち、それをきっかけに新宮市の文化に関心を持てば、新宮市の文化観光にとっても良いことだと言えるだろう。

以上、旧西村家住宅が新宮市における文化観光としての観光地であるといえることを示した。次章では、図3で示したように、西村伊作と親交があった佐藤春夫と、彼の作品や遺品等を展示する佐藤春夫記念館を、文化観光の事例として取り上げる。

V. 佐藤春夫について学ぶ観光

1. 佐藤春夫の人物紹介

佐藤春夫は、1892年に新宮町船町に生まれる。図3で示したように、父の佐藤豊太郎と、大石誠之助が友人同士であったことから、大石誠之助とも繋がりがあった。中学時代から文学を志し、旧制新宮中学を卒業とともに上京する。そこで谷崎潤一郎の推薦のもと文壇デビューを果たす。『田園の憂鬱』で一躍有名になり、熊野を代表する文豪となる。芥川龍之介のライバルといわれ、文壇の大御所、詩聖と呼ばれた。小説だけでなく、『秋刀魚の歌』『殉情詩集』などの詩や、『退屈読本』などのエッセイも世に送り出している。大逆事件で大石誠之助が処刑されたという知らせを聞きつけた際には、詩「愚者の死」を書き、大石の死を悼んだ。1960年に文化勲章を受章し、翌年1961年に初代新宮市名誉市民となる。

2. 佐藤春夫記念館の概要と活動

佐藤春夫記念館は、熊野速玉大社の境内にある。これは東京都文京区関口町にあった佐藤春夫の邸宅が、1989年（平成元年）に現在の場所に移築さ

れ、記念館として開かれたものである。西村伊作の弟である大石七分が設計したことで知られる。佐藤春夫が使用していた応接間や書斎が残されていたり、彼の遺した詩や絵画、愛用した品々が展示されている。

観光協会は、佐藤春夫を新宮市のニューツーリズムの対象の一つとしているようだ。というのは、観光協会が発行する新宮市観光案内には、必ずといっていいほど佐藤春夫および佐藤春夫記念館が紹介されているからである。新宮市名誉市民であり、「熊野を代表する文豪」とまでいわれた佐藤春夫は、新宮市の誇るべき人物であると十分に言えるだろう。

また同館は、展示だけでなく企画展も開催している。具体的には、「中上健次没後20年記念企画」が2012年11月から2013年2月までは開催された。また2012年2月19日から6月2日までは、企画展『『方哉(まさや)は日本一のせがれなり』－佐藤春夫と心理学者の息子・方哉－』が開催された。これは、佐藤春夫が息子の方哉に宛てた作品や、方哉の功績、詩や句、作曲等を紹介する企画展であった。また、企画展「最近の寄贈資料からみえてくるもの」が2013年11月15日から2014年3月9日まで開催されている。

佐藤春夫記念館職員の阿部氏によれば、観光協会が主催のツアー等には記念館側は関わっておら

ず、普段の記念館の宣伝は特にしていないという。しかし上記で述べた企画展等のイベントが行われる際は新聞取材もあり、その案内を図書館で置いてもらうなどして、人々に知ってもらうようにしている。

ここで、年間の入場者数についてみていく。表3は2012年度の佐藤春夫記念館の入場者数の記録である。

表3において注目すべき点は、5月と11月の無料入館者数が他の月に比べて非常に多いということだ。これには理由がある。佐藤春夫記念館は年3回、入館無料の日を設けている。それが佐藤春夫生誕の日(4月9日)、佐藤春夫の命日(5月6日)、そして関西2府8県の美術館・博物館・資



写真2 佐藤春夫記念館(筆者撮影)

表3 2012年度佐藤春夫記念館入場者数

月	有料個人	有料団体	有料合計	無料一般	無料小中学生	無料合計	入館者合計
4	134	10	144	92	1	93	237
5	180	12	192	212	6	218	410
6	129	69	198	57	2	59	257
7	126	62	188	63	29	92	280
8	197	0	197	33	2	35	232
9	124	25	149	33	0	33	182
10	184	0	184	32	2	34	218
11	221	50	271	123	114	237	508
12	109	28	137	62	21	83	220
1	138	10	148	31	11	42	190
2	238	0	238	87	3	90	328
3	158	69	227	53	5	58	285
計	1,938	335	2,273	878	196	1,074	3,347

(出典：佐藤春夫記念館提供資料)

料館の入場料が無料になる関西文化の日（11月7日、8日）である。4月に関してはあまり効果が見られないものの、5月と11月に関しては入場無料の効果が十分に見える。こうして入館無料の日を設けることで、多くの人が気軽に記念館を訪れることができる。そして彼らがそれをきっかけに記念館の雰囲気や展示内容を知り、佐藤春夫に興味を持つようになれば、記念館にも新宮市にとってもメリットがあるだろう。

次に、佐藤春夫記念館の入館者の特徴や、新宮市および記念館を訪れた意向を示す。以下の図は、アンケート結果をもとに作成したものである。なお、アンケート調査期間・方法は旧西村家住宅と同じであり、全部で45人分集まった。図9は佐藤春夫記念館の入館者の性別を、図10は佐藤春夫記念館の入館者の年代を示したものである。性

別に関しては、男性が女性より1.5倍多いという特徴がみられ、年代に関しては20代が17%を占めているが、全体的には50代～70代の年配者が多いと言える。ただし、いずれも無回答者が多いため、言い切ることは難しい。図11は、入館者が佐藤春夫記念館をどのようなかたちで訪れたかを表したものである。佐藤春夫記念館へは個人的に訪れる人の割合が多いが、旧西村家住宅と比較すると、団体で訪れる人の割合が、少しではあるが多い。そして団体で訪れたと回答した人はいずれも、佐藤春夫記念館を訪れた理由を「訪問コースに組み込まれていたから。」と回答している。これは、佐藤春夫記念館が熊野速玉大社の境内にあることが関係していると考えられる。ほとんどの観光ツアーが、世界遺産である熊野速玉大社をコースに入れるだろう。つまり、その境内にある佐藤

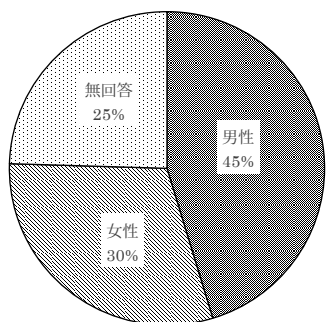


図9 佐藤春夫記念館の入館者の男女比

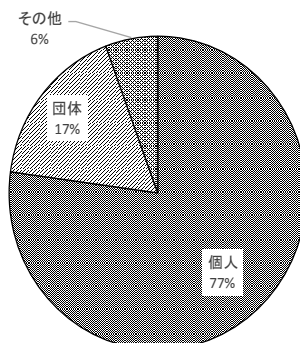


図11 佐藤春夫記念館をどのようなかたちで訪れたか

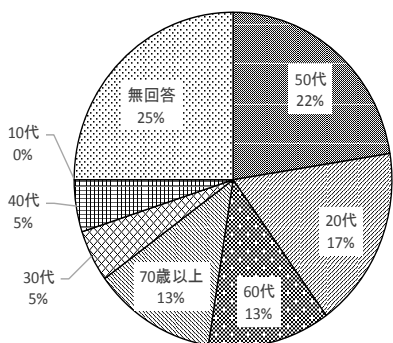


図10 佐藤春夫記念館の入館者の年代

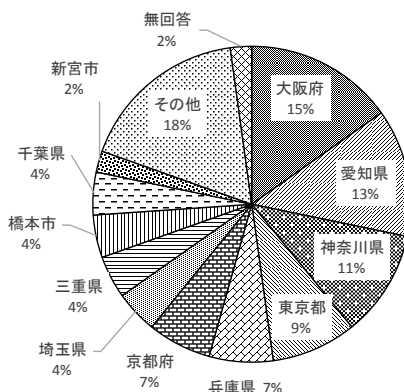


図12 佐藤春夫記念館入館者の住所

春夫記念館も同じく訪問コースに組み込まれることが多いために、団体で訪れる人の割合が旧西村家住宅に比べて多いといえることができる。図12は、佐藤春夫記念館の入館者がどこから来たのかを表したものである。旧西村家住宅と比べると、特徴が大きく違うことが分かる。最も注目すべき点は、新宮市に住む入館者が2%（1名）しかいないということと、神奈川県からの入館者が多いことである。神奈川県からの入館者が多いのは、神奈川県横浜市が佐藤春夫の作品『田園の憂鬱』のゆかりの地だからであろう。さまざまな地方からの入館者がいるのは良いことだが、新宮市内に住む入館者に、新宮市の文化であるといえる佐藤春夫に関心を持ち、佐藤春夫記念館を訪れてほしいものである。図13は、入館者が佐藤春夫記念館を訪れた理由として最も多かったのは、「佐藤春夫を知っていたから」ということだった。これについては、旧西村家住宅の場合と同じことが言える。佐藤春夫を知っていて、佐藤春夫記念館を訪れたということは、佐藤春夫に対して少なからず関心があったと考えられる。これも、観光庁の言う文化観光の定義に当てはまると言えるだろう。

以上のことから、佐藤春夫記念館の入館者は比較的年配の人が多く、また熊野速玉大社と合わせて記念館を訪れる人が多いといえることができる。加えて旧西村家住宅と大きく異なるのは、新宮市内からの入館者が非常に少なく、関東地方、特に神奈川県からの入館者が多いことである。これらが、佐藤春夫記念館の入館者の特徴である。

次節では、西村伊作や佐藤春夫と同じく新宮市

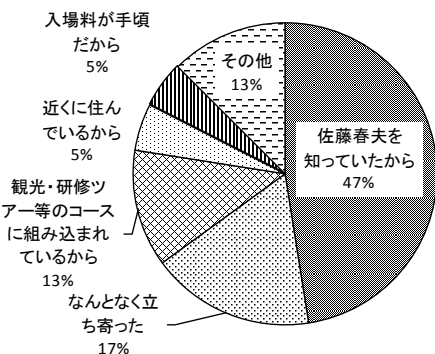


図13 佐藤春夫記念館を訪れた理由

名誉市民である中上健次と、彼の原稿等を保存している中上健次資料収集室を事例として取り上げる。

VI 中上健次について学ぶ観光

1. 中上健次の人物紹介

中上健次は1946年に新宮市の春日に生まれる。1975年に小説『岬』を発表。翌年芥川賞を受賞し、さらに1977年には『枯木灘』で芸術選奨文部大臣賞新人賞を受賞する。1989年には熊野大学を設立し、熊野について学ぶ講座の開講等の活動を続けた。新宮市は、彼の功績をたたえるため、1998年に新宮市名誉市民の称号を与えた¹⁾。

2. 中上健次資料収集室の活動

中上健次資料収集室は、1998年3月に教育委員会によって、新宮市立図書館内に設置された。その目的は、中上健次に関する貴重な資料が紛失しないように、それらを保存することである。ここでは、新宮市立図書館主幹の森奈良好氏の話を参考にする。森氏によれば、新宮市名誉市民である中上健次をたたえるために、中上健次記念館を建てるべきだという声もあったが、諸事情により実現されなかったという。中上健次資料収集室の主な目的は資料の収集保存であり、観光客を呼び込むことではないが、ホームページで収蔵目録を公開し、資料の寄贈や来室を呼び掛けている。来室者には、資料収集室の担当スタッフがガイド的な役割で対応している。

資料収集室は企画展を開くこともある。図14は、III章の佐藤春夫記念館の取り組みとしても述べた、2012年11月から2013年2月まで開かれた企画展の案内である。

この企画展は、新宮市、新宮市教育委員会、中上健次資料収集室と佐藤春夫記念館の共催、熊野大学の協力のもと開催された。企画期間中の来館者数は1,191人にのぼった。このように企画展を開いて、佐藤春夫や中上健次に関心のある人々に楽しんでもらったり、また関心のなかった人々にも、この企画展をきっかけに関心を持ってもらえたりすることが期待できるのではないだろうか。

次に中上健次資料収集室の入室者について見ていきたい。表4は、中上健次資料収集室の2011年から2013年の入室者数を表したものである。

表4から言えることは、3年とも8月の入室者数が多く、和歌山県外からの入室者が圧倒的に多いということだ。これに合わせて、アンケート調査の結果も参考にしたい。アンケート調査の期間・方法は、旧西村家住宅、佐藤春夫記念館と同じである。回答者は全部で4人で、東京都から訪れたのが2人、静岡県から訪れたのが1人、神奈川県から訪れたのが1人である。中上健次資料収集室提供の表4の結果と同じく、和歌山県外からの入室者が多いようだ。また新宮市を訪れた理由として、2人が研究のため、1人が世界遺産観光のため、1人が高速バスに乗るためと答えた。そして中上健次資料収集室を訪れたのは、2人が「中上健次を知っていたから」と答え、他の2人は「中上健次のファンだから」と答えた。

以上2つの結果から、入室者の特徴として、和歌山県外から来る人が多いこと、彼らが中上健次を知っている、またはファンであること、研究のために訪れたことが分かった。中上健次資料収集室は、新宮市民が気軽に訪れることができる空間というよりも、東京都や静岡県など遠方から、中上健次について学ぶために訪れる空間であるといえる。

以上、中上健次の人物紹介と、中上健次資料収集室の活動や入館者について述べた。次章では、中上健次が開設した熊野大学が、どのように文化観光としての役割を担っているかを考察する。

VII 熊野について学ぶ観光—熊野大学の役割・活動—



図14 「中上健次没後20年企画展 佐藤春夫から中上健次へ—熊野と『近代文学』百年」の案内

新宮市には、中上健次を中心とした「隈ノ会」という団体があった。森本祐司氏も熊野会のメンバーの一人であった。そして1989年、中上健次が「熊野とは何か」「熊野の思想を明らかにしよう」という考えから、「熊野大学準備講座」を開き、翌1990年、熊野大学が開講された。開講式は旧西村家住宅で行われた。1992年に中上健次が亡くなった後も、彼の志を継ぐべく、有志が中心となって活動を続けている。

熊野大学の主な活動として、毎年8月に行われるセミナーがある。そこでは、著名な作家、評論家、文化人等をゲストティーチャーとして招き、中上健次や大逆事件、新宮市に関するテーマで講演が開かれている。表5は、熊野大学セミナーのテーマと講師をまとめたものである。

表5のように、セミナーは毎年欠かさず開催されている。熊野大学の森本氏によれば、参加者の年齢層は中学生から年配の人まで幅広く、リピーターも多いという。作家や学者などといった講師陣で構成されており、彼らはおもに中上健次と生前の付き合いがあった人たちである。セミナー参

表4 中上健次資料収集室の入室者数

年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	県内	県外
2011	6	7	23	5	40	8	10	43	4	7	3	6	162	8%	89%
2012	12	14	13	13	4	7	6	39	9	11	7	6	141	11%	88%
2013	12	13	9	18	8	7	22	28							

表5 熊野大学のセミナーのテーマと講師・出演者一覧

開催年	テーマ	講師・出演者	参加人数
1993	中上健次の世界	柄谷行人、すが秀実、渡部直己、イブジママーン	250名
1994	・中上健次と俳句 ・中上健次の世界	茨木和生、宇多喜代子、松根久雄、柄谷行人、渡部直己、浅田彰、奥泉光	90名
1995	・部落青年文化会と中上健次 ・中上健次の世界'95	柄谷行人、渡部直己、浅田彰、いとうせいこう、奥泉光、楠本秀一、松根久雄	約90名
1996	中上健次の世界'95 ・大逆事件と中上健次 ・中上健次をめぐる井戸端会議 ・中上健次の世界	柄谷行人、渡部直己、浅田彰、いとうせいこう、奥泉光、楠本秀一、松根久雄、辻本雄一、四方田犬彦、すが秀実、高澤秀次、ジャック・レヴィ	約100名
1997	中上健次の世界'97 ・中上健次の後期作品めぐって ・聴講生発表 ・中上健次の世界'97	渡部直己、四方田犬彦、いとうせいこう、奥泉光、高澤秀次、他聴講生発表者(4名)	約90名
1998	七回忌記念イベント「中上健次の軌跡」 ・文芸シンポ「俳句」「文学」 ・「芸能」「写真・美術」	茨木和生、宇多喜代子、柄谷行人、渡部直己、奥泉光、小森陽一、都はるみ、四方田犬彦、黒田征太郎、(作品参加、以下同)長友啓典、篠山紀信、渋谷典子	国内外で約2000名
1999	中上健次の世界'99 ・hangover live ・モダンアート展 ・シンポ「中上健次の世界'99」	原田芳雄とフラワートップ、柄谷行人、渡部直己、高澤秀次、奥泉光、いとうせいこう、小森陽一、鎌田哲哉、渋谷典子	約400名
2000	2000年の中上健次 ・映画「路地へ」 ・シンポ「2000年の中上健次」	浅田彰、すが秀実、鎌田哲哉、星野智幸、青山真治、中上紀、高澤秀次	約80名
2001	2001年の中上健次 ①スライドショーと朗読 ②シンポ「2001年の中上健次」	渡部直己、四方田犬彦、野谷文昭、ジャック・レヴィ、いとうせいこう、北島敏三、高澤秀次、中上紀	約70名
2002	没後10年の中上健次 ①金徳洙(キムドクス)ライブ ②山本氏講演 ③シンポ「没後10年の中上健次」	金徳洙、柄谷行人、浅田彰、渡部直己、高澤秀次、山本ひろ子	約100名
2003	フォークナーと中上健次 ・基調鳥講演 ・シンポ「フォークナーと中上健次」	浅田彰、渡部直己、高澤秀次、いとうせいこう、野谷文昭、マッツ・カールソン、柄谷行人、奥泉光	約70名
2004	13回追悼イベント 「吟行句会」「中上健次と近代文学の終わり」 ・市内吟行 ・講演 黒田氏 ・講演 津島氏 ・シンポ「中上健次と近代文学の終わり」	宇多喜代子、茨木和生、黒田杏子、津島佑子、中上菜穂、柄谷行人、渡部直己、高澤秀次、モブノリオ、マルガリータロング	約500名
2005	05 中上健次の世界 ・文芸漫談 いとう・奥泉 ・「今をいきるということ I」 ・講演『「南回帰線」を巡って」 ・シンポ「革命と反復」	柄谷行人、浅田彰、渡部直己、高澤秀次、青山真治、市川真人、いとうせいこう、奥泉光、大塚英志、鈴木泰恵	約70名
2006	中上健次生誕60周年記念 坂口安吾と中上健次 ・文芸漫談、ライブペインティング、朗読、寸劇、写真展 ・「今を生きるということ II」 ・シンポ「坂口安吾と中上健次」	いとうせいこう、奥泉光、中上紀、黒田征太郎、小野正嗣、柄谷行人、関井光男、高澤秀次、北辰旅団他	約300名
2007	中上健次と20世紀の芸術 ・「中上健次『現代小説の方法』を巡って」 ・今を生きるということ III ・「20世紀の芸術と小説」	勝目梓、唐澤るみ子、青山真治、岡崎乾二郎、柄谷行人、菅啓次郎、高澤秀次、渡部直己他	約80名
2008	17回忌記念「中上健次の世界2008」 ・対談「中上健次と上田秋成」渡辺直己 高澤秀次 ・シンポ「大江健三郎から中上健次へ」小林敏朗他	渡辺直己、高澤秀次、モブ・ノリオ、小林敏朗、東浩紀、柄谷行人	約70名
2009	熊野大学第III期開講 「21世紀、熊野から文学」	重松清、島田雅彦、東浩紀、中村文則、円城塔、中上紀、前田壘他	約400名
2010	熊野、中上健次、そして映画 ・講演「強烈な存在感」瀬戸内 ・原作映画上映会×シンポ	瀬戸内寂聴、上野昂志、荒井晴彦、井上紀州、青山真治他	約1100名
2011	中上健次と大逆事件100年 ・講演「熊野100年に思うこと」中上紀 ・講演「中上健次の人間愛」佐木 ・シンポ「中上健次と大逆事件」	佐木隆三、中上紀、高澤秀次、辻本雄一他	約250名
2012	中上健次没後20年 ケンジアカデミア ・朗読とライブペインティング ・各講師による講座	柄谷行人、黒田征太郎、浅田彰、奥泉光、いとうせいこう、バーバラ・ハートリー、渡部直己、高澤秀次、宇多喜代子、若松孝二、高良健吾、紀和鏡、和賀正樹他	約400名
2013	中上健次、半島、宿命	井筒和幸、佐藤康智、川村湊、高澤秀次、韓江、中沢けい、中上紀、和賀正樹他	約250名

出典：森本氏提供資料

加者の中には、講師のファンだから参加したという人も多いという。国内だけでなく、海外からの参加者も数名いる。彼らの多くは団体ではなく個人で来ることが多く、大阪や京都など有名でありきたりな観光ではなく、コアな観光がしたいという思いから来ているのだらうと森本氏は言う。

熊野大学は、セミナーを通して新宮市および熊野の魅力伝える活動をしている。これも、新宮市の伝統や文化を学ぶ文化観光の一つであると言えるだろう。

VIII 大逆事件について学ぶ観光

1. 大逆事件の犠牲者を顕彰する活動

1) 大逆事件とは何か

大逆事件とは、第2次桂太郎内閣が、天皇暗殺を計画して爆弾を製造したとして社会主義者を捕えたのをきっかけに、全国で数百名の社会主義者・無政府主義者が検挙され、うち26名を大逆罪で起訴、うち12名に死刑を執行したという事件である。図15は、全国の大逆事件の連座者の活動地を表したものである。

図15から分かるように、新宮市近辺には6名の連座者がおり、全国で最も多い。これらの6名は「紀州・新宮グループ」と呼ばれている。その6名とは、大石誠之助、成石平四郎、成石勘三郎、



図15 大逆事件の連座者の活動地

峯尾節堂、高木顕明、崎久保誓一である。彼らの親族をはじめとする新宮市の人々は、このような大事件が起こったことに対し、驚きや悲しみ、恐怖を感じていたに違いない。「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会の中森常夫氏(なかもりつねお)によれば、事件直後の新宮の町中は静まり返っていたようだ。この悲劇を暗い過去として封印するのではなく、先人たちの意思を受け継ぎ、新宮市民やそれ以外の人々にも伝えようとするのが、現在の新宮市の活動の特徴である。次項では、その活動について述べる。

2) 大逆事件の犠牲者を顕彰する活動

大逆事件に関わった全国各地に、大逆事件を顕彰するべく活動している団体がある。新宮市では「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会と部落解放同盟(新宮市では新宮支部として活動)などがある。被差別部落と大逆事件が関係しているのは、大石誠之助と高木顕明が大逆事件に連座したからである。というのは、大石誠之助は医師として、新宮の貧しい人々、特に被差別部落の人々の家に自らが出掛けて無償で診療し、差別に苦しむ人々を救済した。そして高木顕明は、住職を務める浄泉寺の門徒として、被差別部落と関わりが多かった。そこで大石誠之助と沖野岩三郎とともに「虚心会^①(きょしんかい)」を組織し、部落解放のための活動をした。しかし、後に大逆事件で大石誠之助は処刑され、高木顕明は無期懲役に処される。これが、大逆事件と被差別部落が関係している理由である。

ここでは、部落解放同盟新宮支部長の中上和年(なかうえかずとし)氏と、「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会の中森氏の話を参考にする。部落解放同盟と「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会は、組織の目的は異なるものの、被差別部落と大逆事件は切っても切り離せない関係として、連携・協力して活動することが多いという。その活動の例として、人権についての講演会や、行政が主催する大逆事件や人権問題に関するフィールドワークの企画への協力などがある。また、「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会は、JR新宮駅の近くに図3の「大逆事件犠牲者の顕彰碑」を建てた。

大逆事件犠牲者の顕彰碑は、新宮市の観光地の



写真3 大逆事件犠牲者の顕彰碑（筆者撮影）

一つにもなっている。写真左の碑には、紀州・新宮グループ6名の名前と、彼らの意思を継がねばならないという内容の文が書かれており、写真右の碑には中上健次の言葉「志を継ぐ」が書かれている。

「志を継ぐ」という言葉は、「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会のテーマとしても掲げられている。中森氏によれば、「志を継ぐ」というのは、中上健次が「大逆事件で犠牲になった人々の志を、新宮市民は受け継がねばならない」という意味で放った言葉であるが、中上健次が亡くなった今、中上健次のその思いも現代に生きる私たちが受け継がねばならないという意味も込めて、この言葉を使用している。この顕彰碑も、新宮市の歴史を伝えるための役割を果たしているといえる。

このように、大逆事件を顕彰する団体は、新宮市の歴史の一つである大逆事件を人々に伝えるための活動している。以上、市民が組織する団体の活動について見てきたが、次節では行政の活動に焦点を当てる。

2. 大逆事件を学ぶフィールドワーク

新宮市では、フィールドワークとして大逆事件を学ぶツアーが組まれている。2013年1月31日から2月1日に、部落解放同盟和歌山県連合会、(社)和歌山県人権研究所、(社)部落解放・人権研究所と実行委員会の主催で、「和歌山県水平社創立90周年記念 第27回人権啓発研究集会 第13回和歌山・人権啓発研究集会」が行われ、そのプログラムの中にフィールドワークが含まれてい

る。その一つとして、「新宮市地区訪問と大逆事件を学ぶ」というテーマのものがある。以下では、このフィールドワークの内容についてみていく。

このフィールドワークは、佐藤春夫記念館、熊野速玉大社、大石誠之助生誕跡地、南谷墓地（中上健次、高木顕明、大石誠之助、峰尾節堂など、多くの人が眠る共同墓地）、神倉神社結界石などを巡り、隣保館で部落についての学習会に参加する。大逆事件犠牲者の顕彰碑、春日地区内、チャップマン邸¹⁾、旧西村家住宅を巡るコースが組まれている。図2に示した観光地に加え、大逆事件に関連のある地を訪ねている。このフィールドワークも、まさに学習をテーマにした観光であり、文化観光の一つであると言える。

3. 大逆事件を語る観光ガイド

ここでは、新宮市観光ガイドの会の、大逆事件の解説を得意とする栗林確（くりばやしつよし）氏の話に参考にする。観光ガイドを始めてから10年になる栗林氏は、ガイドの仕事を開始した当初は、普通の市内の観光ガイドを担当していた。しかし何か物足りない、もっと歯ごたえのあるガイドをしたいという思いを持っていた。あるとき、浜畑栄造氏の『大石誠之助小伝』を読んだことがきっかけで、大逆事件に関心を持ち勉強し、大逆事件を主に扱う観光ガイドとなった。新宮市の観光ガイドのなかでも、大逆事件について語ることでできるガイドは栗林氏が初めてだそう。

部落解放同盟の中上氏や、旧西村家住宅の山上氏など、今回聞き取りを行った人のほとんどが「大逆事件については栗林さんが詳しい。」と声を揃えて言っていたように、栗林氏は大逆事件に詳しい観光ガイドとして知られている。大逆事件やそれに関する事柄についてガイドしてほしいという依頼が観光協会に入れば、観光協会が観光客に栗林氏を紹介し、ガイドしてもらう、というのが主な流れである。大逆事件についてのガイドの依頼主は、学生や教師・教授など、教育関係者が多いという。また、部落解放同盟と「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会は、大逆事件と切っても切り離せない関係にあるため、栗林氏がガイドを行う際、それらと連携をとることもあるという。

栗林氏は、大逆事件は知れば知るほど興味深く、奥が深いものであると語る。そのことを新宮市民はもちろん、新宮市民以外にも知ってもらいたい、伝えたいと言う。そのために、栗林氏は現在も観光ガイドとして、大逆事件を中心に新宮市や熊野の魅力について語る活動をしている。

大逆事件という決して明るくない出来事を観光資源にするというのは、考えにくいかもしれない。しかし新宮市は、大逆事件を過去の暗い歴史として封印するのではなく、むしろ新宮市には反戦や部落解放に尽力した人物がいたということを誇りとして、人々に伝えるために観光資源としている。

IX 今後の展望

この章では、今後の展望を聞き取り調査で聞いた話を総括して述べる。旧西村家住宅の山上氏は、旧西村家住宅へは小学生が団体で訪れることはあるが、校外学習というよりも遠足として来たような感じであるという。彼らの旧西村家住宅への来訪をより充実したものにするために、もっと学校で西村伊作について教えるべきであると山上氏は言う。

また熊野大学の森本氏は、熊野大学のセミナーにおいて新宮市を含む熊野からの参加者が少ないことから、もっと地元の人にも来てほしい、と言う。地元に住む人々よりも、離れた地に住む人のほうが、熊野の魅力に気づいている。これを、森本氏は「灯台下暗し」であると言う。森本氏によれば、熊野は世界遺産だけでなく、祭りや習慣など、魅力あるものが多くある。地元の人にはそれに気づかぬまま過ごしている。また若ければ若いほどその傾向があることから、上の世代が自分の経験をもとに熊野の魅力を教えるべきであると言う。つまり、学校の教育だけに頼るのではなく、家庭や地域での教育が必要であると述べる。

また、大逆事件についても同じようなことが言える。「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会の代表の二河通夫(にこうみちお)氏は、学校でもっと大逆事件について教えるべきであるという。新宮市の小・中学校では、大逆事件についての副読本は配られているようだ。しかしそれを使うことは必

修ではないため、きちんと教育されているかは分からないと言う。新宮市民として、大逆事件についてしっかり学び、またそれを次世代に伝えていくべきであると二河氏は主張する。

また観光協会の寺前氏は、良い観光地とは、そこに住む人々がその地を誇りに思い、観光客を歓迎できる地であると述べる。現在新宮市は、熊野学を学ぶ文化複合施設の設置を計画中である。寺前氏は、その文化複合施設が子どもの新宮市を含む熊野についての学習・教育に繋がり、その子どもたちが新宮市に誇りを持ち、新宮市がより良い観光地になれば、と述べる。

このように、新宮市は教育が不十分だと主張する声が多い。守り受け継がれてきた新宮市の誇るべき伝統を、次世代に受け継ぐためには、教育の充実が不可欠である。それは熊野大学の森本氏が言っていたように、学校だけでなく、家庭や地域での教育も重要である。旧西村家住宅や佐藤春夫記念館をはじめとする文化施設や、世界遺産を含む歴史的遺産、そして自然豊かな場所など、新宮市には魅力ある地が多くある。それにも関わらず、新宮市民、特にそれらの若い世代がそれらについてあまり知らないのはもったいない。まずは新宮市民が「新宮市は素晴らしい所だ。」と誇りに思えるくらい、新宮市についてよく学ぶことが必要であるだろう。そうすれば、観光地としての新宮市が、さらに魅力的なものになるのではないだろうか。

謝辞

本報告を作成するにあたり、新宮市観光協会事務局長の寺前俊二様、旧西村家住宅管理人の山上様、佐藤春夫記念館館長の辻本雄一様、職員の阿部様、新宮市立図書館主幹の森奈良好様、新宮市観光協会専務理事・熊野しんぐうフィルムコミッション代表の森本祐司様、新宮市観光ガイドの会の栗林確様、新宮市人権啓発課の平見仁郎様、部落解放同盟新宮支部長の中上和年様、「大逆事件」の犠牲者を顕彰する会の代表二河通夫、同会員の中森常夫様、部落解放同盟和歌山県連合会書記の三鬼典親様には、聞き取り調査やアンケート調査、資料提供にご協力頂きました。

また新宮市での調査にあたっては、多くの方々

に大変お世話になりました。この場を借りて、皆様に厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 国土交通省観光庁ホームページ
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/index.html>
(最終閲覧日:2014年1月8日) から引用
- 2) 新宮市名誉市民には、佐藤春夫(作家)、東くめ(作詞家)、西村伊作(芸術家・建築家)、中上健次(作家)、木村藤吉(新宮町長、後に新宮市長)、杉本喜代松(新宮市長)、世耕弘一(近畿大学総長)、村井正誠(芸術家)、山本秋広(水戸史研究家、史料収集家)、畑中武夫(天文学者)がいる。
- 3) 新宮市観光協会 2004. 『新宮市モダン』
- 4) 新宮市教育委員会文化振興課作成資料、西村記念館を守り伝える会ホームページ
<http://www.geocities.jp/nishimurakinenkan/>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 5) 新宮市企画政策部協働推進課広報聴係編「心薫る新宮市 新宮市市勢要覧2010」、新宮市観光協会発行「新宮モダン」、新宮市教育委員会発行「新宮市・文化と人権 散歩地図」、新宮市立図書館発行「新宮歩楽歩楽マップ」参照。
- 6) 大石誠之助や高木顕明、沖野岩三郎が1910年頃に組織した、部落差別打破のために活動した団体。現在の部落解放同盟の前身的な団体といえる。中上氏によれば、全国水平社が組織されたのが1922年、和歌山県水平社が組織されたのが1923年であるため、全国的に見ても、この虚心会の人々は人権問題解決の先駆者であったといえる。
- 7) 宣教師チャップマンのために、西村伊作が設計した建物。

参考文献・資料

- 金徳謙 2008. 観光認識と地域振興 香川大学経済学部ツーリズム研究会編『新しい観光の可能性』1-31. 美巧社
- 佐藤春夫記念館 2004. 『佐藤春夫ゆかりの地を歩く 新宮市散歩地図』
- 島川崇 2002. 『観光につける葉ーサスティナブ

- ル・ツーリズム理論ー』同友館
- 新宮市観光協会 2004. 『新宮モダン』
- 新宮市観光協会・新宮市商工観光課 発行年不明『世界遺産の地 新宮市』
- 新宮市企画部協働推進課広報聴係 2010. 『心薫る新宮市 新宮市市勢要覧2010』新宮市教育委員会 発行年不明 『新宮市・文化と人権 散歩地図』
- 新宮市立図書館 1991. 『新宮市文学散歩地図』
- 新宮市立図書館 2012. 『新宮市歩楽歩楽マップ』
- 新宮市役所商工観光課 発行年不明『見る、聞く、触れる 新宮市歴史文学伝説 ぶらりまっふ』
- 「大逆事件」100年フォーラム in 新宮市実行委員会 2011. 『闇を翔る希望』
- 高橋光幸 2006. 観光資源の価値創出の考え方と方法 総合観光学会編『競争時代における観光からの地域づくり戦略』3-15. 同文館
- 辻本雄一 2010. 『大逆事件』と熊野新宮の犠牲者たち』(社)和歌山県人権研究所
- 山上徹・堀野正人 2003. 『現代観光へのアプローチ』白桃書房
- 観光庁 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 熊野大学公式サイト
<http://www.kumanodaigaku.com/>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 新宮市 <http://www.city.shingu.lg.jp>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 新宮市観光協会 <http://www.shinguu.jp/>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 新宮市立佐藤春夫記念館
<http://www.rifnet.or.jp/~haruokan/>
(最終閲覧日:2014/1/16)
- 西村記念館を守り伝える会
<http://www.geocities.jp/nishimurakinenkan/>
(最終閲覧日:2014/1/16)

